

とまちゃん通信

角ともこ県議会レポート

2014.1 January vol.28

新年明けまして

おめでと〜い〜づ〜い〜づ〜います

新春にあたり皆様のご多幸をお祈り申し上げます

私たちにはアベノミクス効果は何ら感じられないばかりか、国家主義に走る政権は、ますます人を大切にしない政治から遠のいていきます。私たちは、しっかりと社会を見据え、一人ひとりが大切にされる政治になるよう声をあげていかなくてはなりません。私も議員活動を通して、今後も皆様の声をしっかりと県政に届け、皆様安心して暮らせる地域づくりに今年も精一杯努めてまいります。

十一月定例議会

11月19日から12月13日まで開催された11月定例議会では一問一答方式による一般質問を行いました。その内容について報告します。

ネット被害から子どもを守る

携帯、スマホの普及で子どもたちが簡単にインターネット（ネット）につながることができるようになり、長時間にわたる利用から、ネットに依存する傾向が見られ、その対策について前回9月議会でも質問しました。今回は、ネットによって犯罪やいじめに巻き込まれることも多くなっており、ネット被害への対策についてさらに質問しました。

●子どものネット犯罪被害の島根県の現状と、その対応について聞く。

警察本部長 出会い系サイトやコミュニティサイトに起因する18歳未満の犯罪被害児童数は、全国では平成24年が1294人、今年上半年では、671人、前年上半年と比較



ケータイスマホハンドブック

して38人増加。このうち島根県内では、平成24年が5人、今年上半年では1人の被害児童を確認。具体的には、ネットを利用して児童と知り合い、児童に自らのわいせつな画像を撮影、送信させたケースや、児童と知りながらわいせつな行為を行ったケースがある。県警察では、小中高校で犯罪被害防止教室を開催し、具体的な被害事例をもとに、ネットを通じて見知らぬ異性と知り合うことの危険性や、出会い系サイトなどの不適切なサイトを閲覧できなくするフィルタリングの重要性について説明、啓発を行っている。また、本年10

月から、サイバーパトロールにより、児童がインターネットを介して不適切な書き込みを発見した場合、注意指導するサイバー補導を行っている。

●子どもたちが自身がネットの有効性と危険性を学ぶことは、大人から伝え聞くことよりもしっかりと身につく。このような取り組みを取り入れていく考えは。

教育長 生徒会活動で、自分たちでインターネット、スマホ等の危険性等について勉強し、それを校内で子どもたちに知らせる取り組みが行われている高校もある。またPTA活動あ

右側の本は、中高生のための携帯電話やスマートフォン付き合い方について、名古屋市金城学院の生徒が長年かけて検討してきた成果をまとめたものです。また、この若者の目線から、保護者や教師が賢い管理者になるための参考書として出版されたのが左側の本です。新しい情報手段としてインターネットとどううまく付き合うか参考になります。

るいは公民館活動で、同じような取り組みをしている事例もある。こうした事例を学校、家庭、地域に積極的に広く情報提供することで、子どもたちが自身が自ら考え主体的に行動していく取り組みが広がっていくことを期待している。

り組みを行っている。①安全なインターネットの利用の仕方、フィルタリングの活用や家庭でのルールづくり等を記載したパンフレットを配付。②親を対象にした家庭教育支援のための参加型学習プログラムの中に、携帯電話やインターネットの正しい利用をテーマにしたものを研修で伝える。③公民館に対する支援の助成事業を活用し、適切なインターネットの利用をテーマにした講演会などを開催している。今後、情報提供を行っていききたい。



知事と一問一答

子どもの医療費負担の軽減

●ネット被害から子どもを守るためには学校だけではなく、保護者や地域社会への理解を広げていく必要があるが、いかがか。

知事 現在、県では3つの取

●乳幼児医療費助成事業を拡充し、就学前の児童の医療費負担をゼロにする考えはないか。知事 市町村からも要望もあり、大切な課題だと認識をしている。県内でも違いがあり、よく検討したい。

フードバンクの取組み

日本では年間5500万トンの食糧を輸入し、一方で1800万トン廃棄しています。この量はおよそ3000万人の食料に、途上国でいえば5000万人分の食料にあたります。そのうち1000万トンは家庭から廃棄されるいわゆる残飯です。また、飲食店や食品工場からもまだ食べられるものも約800万トンあります。



